

第3回取手市部活動地域移行推進協議会 議事録要旨

日時 令和6年2月20日(火) 午後3時～午後4時45分

場所 取手市役所藤代庁舎 3階301会議室

出席 【協議会委員】

八重樫通委員長、豊島大副委員長、近藤忠委員、廣瀬昌也委員、大澤隼人委員、直井徹委員、丸山信彦委員、豊島寿委員（8人）

【市中体連】

松戸孝泰（市中体連副会長）

【地域クラブ活動指導者】

美濃部将文（藤代軟式野球クラブ）

【茨城県教育庁】

教育企画室長 永塚広志、保健体育課指導主事 宮崎健太

【取手市教育委員会】

伊藤哲教育長

スポーツ振興課（事務局）

課長補佐 野口勝彦、係長 岡田繭子、学校教育指導員 黒羽勉、主事 西智志

欠席 廣瀬隆委員、酒井彩乃委員、井橋貞夫委員、伊藤誠委員、堀田将寿委員

○議事

(1)令和5年度モデル事業実施報告（資料P2～6）

事務局より7月から行っているモデル事業の実施報告を行った（資料参照）

別紙アンケート（参加者向け1月実施）要点

〈生徒〉

- ・他校交流・指導の質の向上が見られた。
- ・移動が大変。
- ・対象中学校の数を増やしてほしい。

〈保護者〉

- ・他校交流（保護者間）の機会が増えて良い。
- ・土日どちらかだともったいない。クラブチームなのであれば時間・頻度増やせないか。
- ・送迎の問題 当番制にしては？
- ・いまいち部活との区別が分からない。
- ・剣道 まだ公式の団体戦に参加できない。

〈指導者〉

- ・活気のある活動ができた
- ・学校間の温度差。
- ・ルールなど部活との違いの確認。土日なので携帯電話の使用の是非について。

〈指導者コメント〉

「クラブチーム」はたくさん（長時間）活動できるイメージを持っている方が多い。ただ中体連の11時間ルールに従う現状など部活との区別が難しい。複数校合同でやっているの、交代で休みが取れるなど、指導者一人あたりの負担は少なくなっている。

野球チームは「取手ブレイブ」としてユニフォームを作成した。名簿作ってほしいなどの意見があった 4月までに準備したい。

〈委員コメント〉

中体連関係委員より、地域クラブ活動、部活動の令和6年度における中体連への登録の仕方について現在最終の協議が行われているところ。決定次第周知する。

(2)令和6年度モデル事業計画について（資料P7～8）

（内容意見重複するため議事2，3は事務局より通して説明を行った。）
以下6種の競技でモデル事業を実施する。指導者は今年度同様兼職兼業。
野球（藤中・藤南中・一中、永中・戸中）、剣道（藤南中・藤中、二中）、
柔道（一中・藤中）、バレーボール（藤南中・藤中）、空手（二中）、
女子バスケ（永中・戸中）

(3)今後の運営団体・実施主体の設立について（資料P9）

推進協議会が運営団体・実施主体を設立。各種目について参加者、指導者、保険の管理などを行う。市は運営団体へ補助を行い、各教育団体、スポーツ団体、保護者団体と協力しての運営を想定している。

〈委員より〉

【指導者の確保について】

- ・生徒が少なくなっている中で部活をやりたい生徒には良い話だと思う。目先の課題として市を挙げて指導者の確保・発掘を。
- ・スポーツ協会は高齢化が進んでおり、指導者として活動できる人が少ない。スポーツ少年団には若い指導者が多くいるが、活動時間が夕方から、または土日が基本なので部活とバッティングしてしまう。
- ・市内の総合型スポーツクラブでは、指導する能力のある人は少ないが、見守りなど補助できる人員は確保できると思う。放課後勉強してから、部活に行くというモデルもある。今後の体制によっては相談してほしい。
- ・保護者の立場として、指導員の選任に気を配ってほしい。指導力も必要だが体罰なども心配。

【予算・会費について】

- ・運営団体が設立されるとして、予算の動きはどうなっていくのか。収支のバランスがとれるのか。
 - (事務局)モデル事業を実施してみて必要となる予算を検討協議していきたい。長与町は運営団体を設立しており、会費は3000円という例もあるが、取手市では2000円くらいに抑えたい。現行では一般の部活と差が出ないように会費を徴収していないが、8年度から徴収する予定。
- ・平日の部費が1000円、休日は2000～3000円となると「平日だけでいい」となる家庭も多いと思う。モデル事業を無料で続けて8年度に会費を徴収し始めたところたん希望者がいなくなるようなパターンが考えられる。バランスシートの早期の見極めが必要。

【地域クラブ側の受け入れ体制について】

- ・上を目指したい子、楽しみたい子など実力や温度差があり様々なニーズが予想されるが、取手市で考えていることはあるか。
 - (事務局)スポーツを楽しむことをベースにしながらも県出場くらいのレベルを目指したい。
- ・取手市が目指すビジョンはあるのか。
 - (事務局)主役は子ども。子どもが満足できるものを目指したい。アドバルーンだけあげて中身が伴っていない様なものにはしたくない。競技ごとに施設・道具・人数など状況は異なるものなので、一つ一つの最適解を模索していきたい。
- ・種目について、二中の空手など単体の学校で実施するモデル事業について、どのような意味があるのか。
 - (事務局)取手市内の中学生であれば誰でも入れる。空手をやりたいが学校に部活がない様な子でも参加ができるようになる。
- ・拠点がある種目、例えば野球について、戸頭学区の子が藤代のクラブに入れるのか。
 - (事務局)原則として学区に従う様にする予定。
- ・モチベーションが異なる子どもがいる中で、レベルによる分別など2カ所の拠点で行う意義を持たせても良いのでは。

〈委員長〉計画は計画として、決定稿のような扱いをせず、経験・結果を経て柔軟に対応できるようにした方がよい。

(4) 県保健体育課より

- ・運営団体・実施主体設けることが重要である。教員の兼職兼業ばかりになりがちなので、指導者個人が運営団体から委託を受けるなど、雇用形態の検討を要する。人材不足については、活動日の枠がある程度決まっていれば、地域の方に声をかけてみれば想定より多く集まる場合もある。資格条件は当然要検討、学校の理解も不可欠だが、学校も限界なので意識を変えて行く必要がある。

学校部活動の目的は肥大化している。競技目的、娯楽目的、当初の部活動でも行っていなかった全てのレベルを受け入れるのは正直難しい。運営団体でバックアップできるレベルの検討をしていく必要がある。

- ・モデル事業、試験的な実施だからこそ、クラブ活動費を集めるべきだと思う。

掛川市モデルでは運営団体への市からの補助金無し、参加費月額7000円という形になっている。

実際の需要の調査・予算の算定を行うと同時に、クラブ活動には学習塾と同じようにお金がかかるんだと、保護者、生徒、指導者、学校の意識改革を図っていかなくてはならない。

- ・子どものレベルに合わせて上級、エンジョイ、初心者の3つの段階があるのが理想。

指導者も必ずしも経験者でなくとも見守るだけ、という人がいればいい場合もある。今後兼職兼業のみではたち行かなくなる可能性が高いため、ぜひ県をはじめとした人材バンクの活用を。

鹿嶋市では令和7年度から休日の部活動を廃止するとしている。ロードマップの作成や受け皿となるクラブの紹介などを行っていた。取手市においても時系列も含め検討、示していく必要がある。

○統括

モデル事業対象のクラブについては活気や指導の質の向上、指導者の負担軽減など一定の成果を上げている。

一方で①兼職兼業に頼らない指導員・人材の確保、②実際の予算・需要に沿った運営資金の算定③各関係団体と協力・協議しての運営団体の設立など、部活動の地域移行を進める中で最も大きな課題に直面している。

教育委員会内部のみでの話し合いではどうしてもモデル事業は部活の延長のようになってしまうため、それとは違う新しいイメージの体制確立のために、今後も協議会にて議論を重ね意見を募り、取手市の部活動地域移行のビジョンを作成していきたい。

〈次回協議会日程は決定し次第通知する〉

以上